



自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

Eジャーナルしずおか



令和4年(2022年)
9月5日
月曜日
第251号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3674 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp



探究モデル校として開校するフレックスハイスクール「志榛地区新構想高校」(仮称)で、国際バカロレア(IB)教育の導入(令和8年度にIB一期生入学)を目指しています。IBのプログラムを活用して、多様性や自由を尊重する新しい教育の象徴となる県立高校を実現します。

IBについて

IB機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラムで、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者を育成することが目的です。

年齢によってプログラムが異なり、「ディプロマ・プログラム」(DP)が高校生を対象にしています。

IBプログラムを導入するためには、IB機構による世界共通の認定を受ける必要があります。

本県のIB導入形態

- ◆ **プログラム** デュアル・ランゲージ・ディプロマ・プログラム(DLDP)
※6科目中2科目以上を英語、他は日本語で実施。
本県では「IB英語」と「IB数学」を英語で、他を日本語で実施予定。
- ◆ **履修形態** 選択科目の履修
(個々のニーズに応じて、フルDP^{*1}と一部科目履修^{*2}とを選択可能)
※1 海外大学受験に活用可能など国際的通用性を持つ「DP資格」の取得を目指す。
※2 一部IB科目を履修するが、「DP資格」の取得は目指さない。
- ◆ **規模** ・フルDP：10人
・一部科目履修(選択)：各IB科目10人程度(「IB英語」は10人×3集団)

Q1 IBって英語教育? ▶ 答えはNO!

静岡県で導入を目指すDLDPは、英語よりも日本語授業の方を多く実施する予定です。IBは、課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラムや双方向・協働型授業を特徴とし、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラムなので、どんな生徒にも役立ちます。

Q3 IBを教えるには特別な資格が必要? ▶ 答えはNO!

IB機構が主催するワークショップを受講すれば、一般の教員がIB授業を担当できます。教員にとっても世界レベルの探究学習を学ぶチャンス!

Q2 IBは海外の大学等への進学希望者向け? ▶ 答えはNO!

DP資格を活用して国内大学進学も可能(2022年3月時点で68大学が対応)。また、IBで培った探究学習の成果が総合型選抜にも役立ちます。

Q4 それでも普通の生徒や教員にIBは必要ないんじゃないの? ▶ 答えはNO!

IBは先進的な探究学習を特色としており、どの学校でも標準的に実践され始めている探究学習の良い見本となることから、他県の公立校でも導入が進んでいます。なお静岡県では、一部のIB科目の選択履修も可能にすることで、より多くの生徒が先進的な教育を受けられるようにする予定です。

こんな疑問があれば、イベントへ!

静岡県内初開催

参加無料

9/25(日)

10:00▶15:00

@静岡県庁

国際バカロレア教育地域セミナーin中日本地区

- 内容** IBに関する講演、分科会IBミニセッション、トークセッション等
- 対象** IBに関心のある教育関係者ならびに生徒・保護者等
- 定員** 100名(事前申込制)*分科会は約30名定員予定

主催：文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局
共催：静岡県教育委員会
協力：国際バカロレア機構

お申し込み・問合せは
コンソーシアムHPへ



志榛地区新構想高校(仮称)について

- ◆ **校名** 未定(9~10月募集予定)
- ◆ **開校年度** 令和6年度(2024年度)
- ◆ **設置場所** 現在の金谷高等学校の校地
- ◆ **募集定員** 160人/年 ※令和5年秋の入学定員発表で確定
- ◆ **設置学科** 普通科

- ◆ **教育目標** 多様な生き方を尊重し、興味・関心や進路希望に応じた学習によって生徒の持つ能力や個性を伸ばさせ、社会や地域に積極的に参画し貢献する自立した人材を育成する。
- ◆ **特色** ・多部制単位制の「フレックスハイスクール」で、大学のように自分のペースで通学時間や時間割を決められる。
・生徒の興味・関心、進路希望等に応じて多様な科目を選択できる。

IBについて
もっと知りたい方は
コチラへ



※現時点での計画であり、変更になる可能性もあります。

実践NOTE⁴⁹⁹

教科横断的な視点で『つながる』授業づくり

静岡県立藤枝西高等学校 教諭 増田 香里

令和4年4月、新教育課程スタート!

新教育課程が始まるにあたり、今回の学習指導要領の改訂で目指していることは何かを自分なりに整理してみました。私が捉えたキーワードは『自分』『つながる』『未来』です。私はこのことを、先行実施で取り組んできた「総合的な探究の時間」(本校では「総合的な探究の時間」を「究タイム」と呼んでいます。以下「究タイム」と表記します。)でも実感しました。

究タイム(総合的な探究の時間)での学び

究タイムでは、社会や身の回りで起きていることを自分事として捉え、自分で課題を見つけ、協働的に学びを進めながら、課題解決に向かっています。この過程で生徒は、自分と他者、自分と地域や社会など、様々なつながりを実感し、未来を拓く力を身に付けていきます。初めは、担当者の私も分からないことだらけでした。それでも先生方や市役所の方、大学の先生など、たくさんの力を借りて少しずつ前に進んできました。苦しいこともありましたが自分の成長を感じ、ワクワクする瞬間は何にも代えがたく、生徒にもこの気持ちを味わわせてあげたい!と思いました。



各教科等の学びを支える「話すこと・聞くこと」の指導

学習効果を最大に引き出すカギは、教科横断の視点でそれぞれの学びが「つながる」ことです。私は「現代の国語」で、まず「話すこと・聞くこと」の力を付けたいと考えました。各教科等で「主体的・対話的で深い学び」を実践している今、この力は生徒の学びの基盤となると考えたからです。自分の考えを話し、相手の考えを聞き、伝え合って有意義な話し合い活動をするために、「話し合いカード」を作ってみようと考えました。



カードは3種類、青は進行、黄色は質問、桃色は反論や違う意見を述べるための言葉が書かれています。生徒はここだ!というタイミングでカードを出し、ゲーム感覚で楽しみながら、質問や反論、要点の整理等が自然にできる仕掛けです。やってみると、生徒はいつも以上に相手の話をよく聞かなければカードを使えないことに気が付き、カードの言葉を意識しながら自分の考えを具体的に話そうという意識も芽生えたようでした。

『つながる』意識が未来を変える!

授業で身に付けた力がどのような場面で発揮されるのか。学びがどのようにつながって、どんな未来につながるのか。学びと学び、人と人、学校と地域など、たくさんのつながりを意識することで、大きな可能性が生まれます。周囲の先生方とつながって、温かい勇気ももらいながら新しい授業づくりに励んでいきたいと思っています。



実践NOTE⁴⁵⁰

防災教育の充実と防災体制の整備 ~視覚障害児の安全な避難~

静岡視覚特別支援学校 教諭 落合 将之

本校は、視覚に障害のある幼児児童生徒が通う学校です。静岡県教育委員会の研究指定を受けて、弱視児や全盲児が、どうしたら自分の身を守り、安全に避難できるか、学校や地域の防災体制をどう整備していけば良いかを学校全体で考えてきました。



1. 命を守る防災教育の充実

「自分の命を守る」

中学部の総合的な学習の時間では、「この場所で、地震がおきたら?」という質問に対して、「本で頭を守る」、「セラピーマットが使える」などの返事が返ってきました。身近なもので自分の身を守ることへの意識が高まってきました。

「音がする方向に!」

これまでグラウンドに避難することが当たり前と考えていました。しかし、視覚障害児にとっては、「近くで音がする場所(方向)」、「普段使っている場所」が、迅速かつ安全に移動できると考え、アドバイザーの助言を受けて、一時避難場所を同じフロアの廊下に変更しました。「あそこにいけば!」という目安を立てて避難できるようになりました。

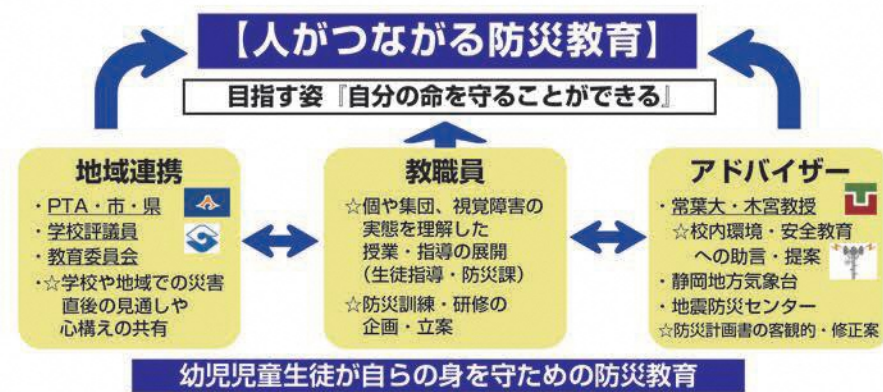


「1秒でも早く!」

緊急地震速報を聞いて1秒でも早く各自の行動に移す「シェイクアウト訓練」を行いました。各クラスでも練習を重ねました。全盲の児童は、いろいろな音の中で、「必要な情報を整理する」、また、一早く「手すりの位置を確認する」など、繰り返しの訓練の中で何をすればいいかを考えることができるようになりました。

2. 防災体制の整備

地域の方やアドバイザーから、「人のつながり」について意見をいただきました。どうつながりを持たせ、どう連携していけばよいか検討し、体制を整えました。



3. 保護者との連携

家庭で用意した非常食を親子で試食する「参加型体験活動」を実施しました。食べるために必要な道具の不足に気づいたり、友達の非常食を参考にしたりするなど、一人一人が考え、伝え合うことができました。

今後につなげる

幼児児童生徒は1秒でも早く行動する力や判断力の向上が見られるとともに、訓練においても落ち着いて避難できる場面が増えました。今後も、学校や家庭、地域が連携し、さらなる安全のための防災教育を進めていきたいです。



学校広報 プロジェクト第1弾

静岡県立浜松湖北高等学校



教育委員会事務局の広報プロジェクトチーム(略して「広報PT」)が、学校からの「私たちの学校の取り組みを見に来て!!」の声に応え、直接学校に取材・撮影を行いました!

今回は、オンリーワン・ハイスクール指定校で、SPAC学校訪問プロジェクト講座が開催された、浜松湖北高校を訪問。参加生徒は俳優の指導を受け、コミュニケーション能力の向上や多様な自己表現方法を学びました。



参加生徒の声



生徒たちから「人前で話す力、表現力を学んだので生徒会での運営(講演等)に生かしていきたい」、「色々な声を出すことで演技のパリエーションが増えると感じました」などの感想がありました。

担当教員 (村田教諭)の思い



総合型選抜や学校推薦型選抜など、自分の考えを表現することが求められる入試方法が増えました。自分を表現することに慣れて自信をつけてほしいと思い、SPACに講座を依頼しました。

講座を通して、普段と違うことを体験することで、自分の中の思わぬ良いところに気づき、成長につなげることができると思います。

● SPAC俳優(関根氏・大道無門氏)から感想

参加した生徒はみんなとても積極的で、他の生徒の演技を見る、聞くことがしっかりでき、演技がうまくなりたいという気持ちに圧倒されました。

講座に参加した生徒がその時間を楽しんで過ごし、先生方にもその様子を見ていただく、それだけで価値があると思います。

SPACは演劇に関するのなら、県内どこにでも駆けつけてサポートします!お気軽に御連絡ください。



● 広報PTの感想

生徒たちは、俳優から表現方法のコツを得ようと終始、真剣な様子で話を聞いていました。講座の終了後も、俳優への質問がやむことなく、続けられていました。

引き続き、たくさんの学校からの「私たちの取り組み、学校を見に来て!」の声を募集しています。



広報PTへの連絡はこちらまで ▶ TEL 054-221-3674・3134

メールアドレス kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

SPAC学校訪問プロジェクトの動画はコチラ ▶



8月に行われた英語集中講座の記事はコチラ ▶



【教育政策課】

全ての児童・生徒の可能性を引き出す 個別最適な学びと協働的な学び の一体的な充実に向けて

静岡県総合教育センター 令和の学びプロジェクトチーム (RPT)

新しい研究がスタートしました!

令和3年1月答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」を受け、総合教育センターでは本年度4月に「令和の学びプロジェクトチーム(RPT)」が発足しました。RPTでは昨年度までのALPTの成果を踏まえつつ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための授業づくりについて研究します。令和4年度は、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための「個別最適な学び」と「協働的な学び」とはどのようなものなのか、そのための効果的なICTの活用方法などをテーマに研究を進めています。

児童・生徒の資質・能力の育成

一人一人の児童・生徒の多様性に向き合いながら、それぞれの児童・生徒を主語にして

主体的・対話的で深い学び

個別最適な学び

一体的に充実・ICTの効果的な活用

協働的な学び

◆指導の個別化

個々の特性・学習進度・学習到達度等を踏まえて、必要に応じた重点的な指導方法の工夫(学習内容の確実な定着)

◆学習の個別化

個々の興味・関心・キャリア形成の方向性に応じた学習活動・学習課題の提供(学習を深め、広げる)

◆多様な他者との協働

・児童・生徒同士
・異学年、他校の児童・生徒
・地域の人 専門家

児童・生徒一人一人の
・異なる考え方が組み合わせられたよりよい学び
・社会とのつながりを実感

研究の成果は各種研修やリーフレット等で紹介していきます。

令和4年
3月更新

5分で学べる!いつでも、どこでも、スマホでも!
「主体的・対話的で深い学び」実現のための
マイクロコンテンツ集 一動画で学ぶ授業づくり

動画は
こちら▶



【総合教育センター】

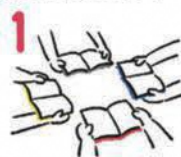
あなたの一票でチャンプ本が決まる!!

第8回静岡県高等学校ビブリオバトル

観戦者募集!!

? ビブリオバトルとは・・・?

「ビブリオバトル」は「知的書評合戦」とも呼ばれます。参加者同士で本の紹介をし合い、もっとも読みたいと思う本を集まった人全員の投票で決めます。



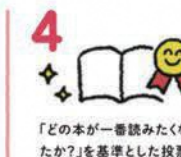
発表参加者が読んで面白かった本を持って集まる。



順番に一人5分間で本を紹介する。



参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分で行う。



「どの本が一番読みたくなかったか?」を基準とした投票を一人一票で行い、最多票の本を「チャンプ本」とする。

募集中 観戦者を募集します! 申込締切 9月12日(月)

申込みは
こちらから



高等学校ビブリオバトルの観戦者を募集しています。観戦を希望の方は、二次元コードからメールソフトを起動し、名前・住所・連絡先を御記入の上、メールでお申し込みください。

日時 令和4年9月25日(日)
13:30開始(開場13:00)

会場 常葉大学静岡草薙キャンパス
JR草薙駅北口から徒歩4分
公共交通機関を御利用ください

- 観戦には事前の申込みが必要です。
- 観戦は無料です。
- 取得した個人情報は、本事業にのみ使用します。
- 決勝戦(発表者10名程度)を観戦いただけます。(午前中に予選を行い、午後の決勝戦進出者を決めます。)
- 新型コロナウイルスの感染対策状況により、開催方法を変更する場合があります。

- 定員を超えた場合は抽選とし、募集受付終了後、申込者に抽選結果と開催方法についてメールを送信します。
- 応募人数により、会場内別室にてライブ配信による観戦をしていただく場合があります。(投票は可能です)
- 詳細は静岡県のHP(読書県しずおかBOOKサイト)を御覧ください。

読書県しずおかBOOKサイト▶



【社会教育課】 TEL 054-221-3160

静岡県教育委員会と
アイドルグループfishbowlが連携



高校生からのfishbowlへのお願い募集中

~fishbowlの高校生からのお願い叶っちゃってもいいですか?~

静岡県教育委員会と静岡発のアイドルグループ・fishbowlは静岡県内の高校生を応援するために、コラボしています。現在、高校生の皆さんからfishbowlへのお願いを募集中です。ぜひ、生徒の皆さんにお声かけください。

高校生からのfishbowlへのお願い

高校生活に関することやお住まいの地域に関する事など、何でもOKです。高校生がfishbowlのHPにある、応募フォームへ入力し、応募してください。



(依頼例)

- 学校や地域にある噂話の真偽を確かめて欲しい!
- 転校してしまう同級生にサプライズを行いたい!
- 高齢化が進む地域のお祭りを一緒に盛り上げて欲しい!
- 部活や授業で作った、マンガ・ゲーム・料理・加工品などに忌憚のない意見・感想・アドバイスが欲しい!

なお、学校に取材・撮影に行く場合には、当課から事前に依頼内容や日程等を学校に確認・連絡させていただきます。

応募方法の詳細は、fishbowlのHPをご確認ください。
URL: https://app.fishbowl-shop.jp/shizuoka_school.html



【教育政策課】

学科が変わります!

(令和5年度静岡県立高等学校学科改善)

学校の一層の魅力化推進や地域のニーズ等を踏まえ、県教育委員会では、来年度、下記の学科改善を行います。

学校名	改善前	改善後
吉原工業高校(全日制)	機械科	機械工学科
	電子機械科	ロボット工学科
	電気電子科	電気情報工学科
	システム化学科	理数化学科
	数理工学科	
天竜高校(全日制)	総合学科	福祉科 (新設)
	森林・環境科	
	変更なし	
伊東高校(全日制)	普通科	普通科 ビジネスマネジメント科
城ヶ崎分校(全日制)	普通科	
伊東商業高校(全日制)	総合ビジネス科	
伊豆伊東高校(全日制) (令和5年4月開校)	普通科	

【高校教育課】

静岡大学教育学部附属浜松小中学校

よりよい未来を創造する子どもの育成(2年次)

~各教科における「変革を起こす力」を育む学びのデザイン~

本年度の教育研究発表会では、子どもが自己や社会にとってのウェルビーイングに向かって進むべき方向を自ら見つけ歩いていく姿をめざし、「変革を起こす力」を育む学びのデザインを提案します。

YouTube授業動画配信 +オンライン研究発表会



実施日 令和4年
10月20日(木)・21日(金)

※10月20日(木)・21日(金)の研究発表会は、オンラインで開催します。
※研究発表会の前に授業動画を御視聴いただき、オンライン研究発表会に参加していただけます。なお、希望される方は授業動画を撮影する日に御来校いただき、授業を参観することも可能です。詳細につきましては、本校HPを御覧ください。

本校
ホームページ

静岡大学教育学部
附属浜松小学校



静岡大学教育学部
附属浜松中学校



【静岡大学教育学部附属浜松小・中学校】

この夏に五七五七七音で あなたの気持ち 残しませんか

第9回 あいのうた募集

募集期間
8月1日(月)~
9月30日(金)

子どもから大人まで、学校での応募も

「出会いから子育てまで」をテーマに、あらゆる「あい」を詠んだ短歌を募集するコンテストです。高校生以下を対象としたジュニアの部には、例年県内外の学校から御応募をいただいています。ぜひクラスで、学年で、あるいは皆様御自身で、大切な人への「あい」を詠んでみませんか。

第8回受賞作品

みどりごの見るものすべて初めてで
今朝は右手にほほえんでいる
一般の部:静岡県静岡市 杉山 博代さん
「はつこい」と漢字テストに出れば
君の笑顔が切なく浮かぶ
ジュニアの部:静岡市立蒲原中学校3年 玉川 月詩さん

オンライン 表彰式・対談を 3月に開催予定!

審査員の儀万智氏、田中章義氏に
上位受賞作品を講評していただき
ます。
※写真は第8回の対談の様子です。

郵便FAXでの応募

以下の事項をハガキ等に書いてお送りください。
①氏名(ふりがな)②郵便番号③住所④年齢(小中高生は学校と学年)⑤電話番号⑥Emailアドレス⑦作品⑧作品を作ったときの気持ち(50字以内)

宛先 〒430-0929 浜松市中区中央2-10-1 浜松青色
会館5F あいのうた事務局

WEBでの応募

<https://ainouta2022.com/>

第9回あいのうた 検索

こちらからも
アクセスできます▶



★クラス・学年で御応募いただく場合は、人数分の応募用紙を送付します。
県子ども未来課(054-221-3546)に御連絡ください。

【主催:静岡県 健康福祉部子ども未来課】

広告

いま、高校生たちの 発想がオモシロイ。



主催:電気新聞(一般社団法人日本電気協会新聞部) 共催:静岡新聞社・静岡放送
事務局:一般社団法人日本電気協会新聞部(電気新聞)メディア事業局内 第4回 高校生が競うEnergy Pitch!事務局
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館3階 Tel:03-3211-1555 E-mail:energypitch@denkishimbun.com

エネルギーピッチ



第4回 高校生が競うEnergy Pitch!

“30年後の現役世代”が2050年を構想する
社会の課題解決 with Energy プラン コンテスト

2022年 11月19日(土)~20日(日)会場:グランシップ

予選(19日)会議ホール・風
本選(20日)中ホール・大地 ※一般公開、事前申込制(定員300名)
聴講申込、詳細な活動内容についてはホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、開催方法を変更する場合があります。予めご了承ください。

協力

SHIZGAS

